

授業計画

平成23年度

Syllabus 2011

兵庫大学大学院

経済情報研究科

経済情報専攻修士課程

平成22年度入学者に係る教育課程表

授業 区 分	授 業 科 目 の 名 称	授業 方法	単位数		免許 等 必修	学年配当 (数字は週当たり授業時間)				担 当 者	備 考
			必修	選択		1年		2年			
						I	II	I	II		
1 群 (経 済 ・ 金 融 ・ 商 業 系 科 目)	理論経済研究A	講義		2		2				森 義隆	
	理論経済研究B	講義		2			2			森 義隆	
	経済システム研究A	講義		2		2				不開講	
	経済システム研究B	講義		2			2			不開講	
	公共経済研究A	講義		2		2				不開講	
	公共経済研究B	講義		2			2			不開講	
	環境経済研究A	講義		2		2				池本 廣希	
	環境経済研究B	講義		2			2			池本 廣希	
	産業組織研究A	講義		2		2				石原 敬子	
	産業組織研究B	講義		2			2			石原 敬子	
	国際経済研究A	講義		2		2				不開講	
	国際経済研究B	講義		2			2			不開講	
	国際関係研究A	講義		2		2				斎藤 正寿	
	国際関係研究B	講義		2			2			斎藤 正寿	
	地域経済研究A	講義		2		2				(田端 和彦)	
	地域経済研究B	講義		2			2			(田端 和彦)	
	地域政策研究A	講義		2		2				瀧本 眞一	
	地域政策研究B	講義		2			2			瀧本 眞一	
	社会政策研究A	講義		2		2				(河野 真)	
	社会政策研究B	講義		2			2			(河野 真)	
証券市場研究A	講義		2		2				高本 茂		
証券市場研究B	講義		2			2			高本 茂		
商業史研究A	講義		2		2				不開講		
商業史研究B	講義		2			2			不開講		
特殊研究 I A	講義		2		2				不開講		
特殊研究 I B	講義		2			2			不開講		
2 群 (経 営 ・ 会 計 系 科 目)	経営学研究A	講義		2		2				竹川 宏子	
	経営学研究B	講義		2			2			竹川 宏子	
	財務分析研究A	講義		2		2				不開講	
	財務分析研究B	講義		2			2			不開講	
	制度会計研究A	講義		2		2				不開講	
	制度会計研究B	講義		2			2			不開講	
	税務会計研究A	講義		2		2				三宅 伸二	
	税務会計研究B	講義		2			2			三宅 伸二	
	マーケティング研究A	講義		2		2				不開講	
	マーケティング研究B	講義		2			2			不開講	
	地域計画研究A	講義		2		2				(田端 和彦)	
	地域計画研究B	講義		2			2			(田端 和彦)	
	地域行政研究A	講義		2		2				木下 準一郎	
	地域行政研究B	講義		2			2			木下 準一郎	
	企業経営事例研究(実習含)	講・演		2				2			
	特殊研究 II A	講義		2		2				不開講	
特殊研究 II B	講義		2			2			不開講		

平成22年度入学者に係る教育課程表

授業 科目の 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		免許 等 必修	学年配当（数字は週当たり授業時間）				担当者 平成22年度の 担当者	備考
			必修	選択		1年		2年			
						I	II	I	II		
3 群 (情 報 ・ 数 理 系 科 目)	経営システム研究A	講義		2		2				不開講	
	経営システム研究B	講義		2			2			不開講	
	情報システム研究A	講義		2		2				榎木 浩	
	情報システム研究B	講義		2			2			榎木 浩	
	情報処理研究A	講義		2		2				高野 敦子	
	情報処理研究B	講義		2			2			高野 敦子	
	情報伝達研究A	講義		2		2				榎木 浩	
	情報伝達研究B	講義		2			2			榎木 浩	
	情報検索研究A	講義		2		2				穂積 隆広	
	情報検索研究B	講義		2			2			穂積 隆広	
	コンピュータグラフィックス研究A	講義		2		2				田中 正彦	
	コンピュータグラフィックス研究B	講義		2			2			田中 正彦	
	情報通信研究A	講義		2		2				堀池 聡	
	情報通信研究B	講義		2			2			堀池 聡	
	統計分析研究A	講義		2		2				不開講	
	統計分析研究B	講義		2			2			不開講	
	情報数学研究A	講義		2		2				山本 真弓	
	情報数学研究B	講義		2			2			山本 真弓	
	情報数理研究A	講義		2		2				中田 美栄	
	情報数理研究B	講義		2			2			中田 美栄	
	情報法学研究A	講義		2		2				不開講	
	情報法学研究B	講義		2			2			不開講	
	情報教育研究A	講義		2		2				森下 博	
情報教育研究B	講義		2			2			森下 博		
特殊研究ⅢA	講義		2		2				不開講		
特殊研究ⅢB	講義		2			2			不開講		
特別研究(論文指導)	演習		8			8				*参照	
	合計		8	138							

* 三宅伸二、高本茂、中田美栄、堀池聡、石原敬子、山本真弓、穂積隆広、榎木浩、竹川宏子

平成21年度入学者に係る教育課程表

授業 区 分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		免許 等 必修	学年配当 (数字は週当たり授業時間)				担 当 者	備 考
			必修	選択		1年		2年			
						I	II	I	II		
1 群 (経 済 ・ 金 融 ・ 商 業 系 科 目)	理論経済研究A	講義		2		2					
	理論経済研究B	講義		2			2				
	経済システム研究A	講義		2		2					
	経済システム研究B	講義		2			2				
	公共経済研究A	講義		2		2					
	公共経済研究B	講義		2			2				
	環境経済研究A	講義		2		2					
	環境経済研究B	講義		2			2				
	産業組織研究A	講義		2		2					
	産業組織研究B	講義		2			2				
	国際経済研究A	講義		2		2					
	国際経済研究B	講義		2			2				
	国際関係研究A	講義		2		2					
	国際関係研究B	講義		2			2				
	地域経済研究A	講義		2		2					
	地域経済研究B	講義		2			2				
	地域政策研究A	講義		2		2					
	地域政策研究B	講義		2			2				
	社会政策研究A	講義		2		2					
	社会政策研究B	講義		2			2				
証券市場研究A	講義		2		2						
証券市場研究B	講義		2			2					
商業史研究A	講義		2		2						
商業史研究B	講義		2			2					
特殊研究 I A	講義		2		2						
特殊研究 I B	講義		2			2					
2 群 (経 営 ・ 会 計 系 科 目)	経営学研究A	講義		2		2					
	経営学研究B	講義		2			2				
	財務分析研究A	講義		2		2					
	財務分析研究B	講義		2			2				
	制度会計研究A	講義		2		2					
	制度会計研究B	講義		2			2				
	税務会計研究A	講義		2		2					
	税務会計研究B	講義		2			2				
	マーケティング研究A	講義		2		2					
	マーケティング研究B	講義		2			2				
	地域計画研究A	講義		2		2					
	地域計画研究B	講義		2			2				
	地域行政研究A	講義		2		2					
	地域行政研究B	講義		2			2				
	企業経営事例研究(実習含)	講・演		2				2		不開講	
特殊研究 II A	講義		2		2						
特殊研究 II B	講義		2			2					

平成21年度入学者に係る教育課程表

授業 科目の 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		免許 等 必修	学年配当（数字は週当たり授業時間）				担当者 平成22年度の 担当者	備考
			必修	選択		1年		2年			
						I	II	I	II		
3 群 （情 報 ・ 数 理 系 科 目）	経営システム研究A	講義		2		2					
	経営システム研究B	講義		2			2				
	情報システム研究A	講義		2		2					
	情報システム研究B	講義		2			2				
	情報処理研究A	講義		2		2					
	情報処理研究B	講義		2			2				
	情報伝達研究A	講義		2		2					
	情報伝達研究B	講義		2			2				
	情報検索研究A	講義		2		2					
	情報検索研究B	講義		2			2				
	コンピュータグラフィックス研究A	講義		2		2					
	コンピュータグラフィックス研究B	講義		2			2				
	情報通信研究A	講義		2		2					
	情報通信研究B	講義		2			2				
	統計分析研究A	講義		2		2					
	統計分析研究B	講義		2			2				
	情報数学研究A	講義		2		2					
	情報数学研究B	講義		2			2				
	情報数理研究A	講義		2		2					
	情報数理研究B	講義		2			2				
	情報法学研究A	講義		2		2					
	情報法学研究B	講義		2			2				
	情報教育研究A	講義		2		2					
情報教育研究B	講義		2			2					
特殊研究ⅢA	講義		2		2						
特殊研究ⅢB	講義		2			2					
	特別研究(論文指導)	演習	8			8				*参照	
	合計		8	138							

* 三宅伸二、高本茂、中田美栄、堀池聡、石原敬子、山本真弓、穂積隆広、榎木浩、竹川宏子

《1群（経済・金融・商業系科目）》

科目名	理論経済研究A				
担当者名	森 義隆				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

今回の講義テーマは「マクロ経済学のミクロ的基礎づけ」である。'80年代以降、従来のケインズ経済学的マクロ均衡に対して厳しい批判の対象となったミクロ的行動仮定や市場での競争形態などの前提を再検討し、その後展開された独占的競争、取引費用、外部性、誘因両立性などのトピックを通して、新古典派、ポスト・ケインズ派、新しいケインズ派などの学派間の対立、論争をサーベイし、市場経済へのより説得的で明確なアプローチを探る。

《授業の到達目標》

最近のマクロ経済動学をサーヴェイすることにより、現在の経済学の有効性がどれだけ高まったのか、いまなお残る分析上の不備や解決すべき課題を整理し、確定する。

《テキスト》

『現代マクロ経済学』吉川洋（創文社）2000年

《参考文献》

『マクロ安定化政策と日本経済』浅子和美（岩波書店）2000年

《成績評価の方法》

購読、研究発表(50点)とレポート(50点)で評価する。

《授業時間外学習》

外国文献を読み、論文展開のスキルを身につけるため、要約および部分訳を自宅学習として課する。

《備考》

理論の内容を正確に理解したかどうかをチェックするために、関連するテーマのレポートを提出してもらう。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	主要な文献（英文ジャーナルをも含む）を購読し、マクロ経済均衡の具体的なモデル化、厚生経済学的な含意、不均衡の意味などを考察する。学部段階での「ミクロ経済学」の市場均衡とマクロ経済学でのIS/LM分析、AD/A S分析の既修を前提とする。
第 2 週	(1) ミクロ経済学の復習・基本定理の確認
第 3 週	(2) 市場均衡
第 4 週	(3) IS/LM分析
第 5 週	レポート提出 (1)
第 6 週	(4) マクロ経済学と国民所得分析
第 7 週	(5) 総需要・総供給分析
第 8 週	(6) 財政・金融改革
第 9 週	レポート提出 (2)
第 10 週	(7) オープン・マクロ経済学の基本枠組み
第 11 週	(8) 為替レート決定の原理①
第 12 週	(9) 為替レート決定の原理②
第 13 週	レポート提出 (3)
第 14 週	(10) まとめ
第 15 週	総括レポートの作成と提出

《1群（経済・金融・商業系科目）》

科目名	理論経済研究B				
担当者名	森 義隆				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

日本経済は1980年代後半に起こったバブル景気が90年代初頭には崩壊・終焉し、不良債権の処理と円高不況に襲われ未曾有の「デフレ」に10年（あるいは20年）間悩まされている。この間金融政策は超低金利、量的緩和政策の基調にあったが、こうした政策発動もむなしく、いまなお厳しいデフレ不況にある。今世紀に入ると、その原因と対策をめぐって、活発な議論が巻き起こり、それをまとめた研究書が次々と出版された。この講義では、そのデフレ不況を実証的に解析した研究書を取り上げ、全体を概観する一歩である。

《授業の到達目標》

1990年代から続く経済不況＝停滞の真の原因はなにか、それはどのようなメカニズムで生じたのか、そのとき財政や金融の政策はどのような内容で、どのような効果があったのか、計量経済の分析手法を用いて考察する。また、過去の類似の事例（大恐慌）を内外の経験に引き寄せて、比較検討する。こうして現在のデフレ不況の淵源と帰結を学び、現在の立ち位置を確認する。

《テキスト》

原田・岩田編著『デフレ不況の実証分析』東洋経済新報社、2002

《参考文献》

内閣府『経済財政白書』各年版

岩田・宮川編『失われた10年の真因は何か』東洋経済新報社、2003

《成績評価の方法》

平常の講読、発表(50点)、レポート提出(50点)で評価する。

《授業時間外学習》

この20年間の新聞記事やインターネットでの記事、事項検索を課題としてその都度行う。政府、日銀、企業、消費者などの経済主体が当時どのように事態の推移を見ていたか、各自に理解させる。

《備考》

テキストは必ず購入すること。新聞やテレビでの経済ニュースは毎日見て確認すること。

《授業計画》

週	授 業 計 画	
第1週	第1章 90年代の概観	経済停滞の原因
第2週	第2章 停滞の「構造主義的」理解の問題	
第3週	同上	「構造問題」とは何か
第4週	第3章 財政政策か金融政策か	
第5週	第4章 賃金の硬直性と金融政策の衝突	
第6週	同上	総供給と総需要曲線モデルを使った分析 レポート課題(1)
第7週	第5章 資産デフレとバランスシート調整	
第8週	同上	貸出市場の分析
第9週	第6章 銀行破綻とマクロ経済	アメリカ大恐慌時の事例
第10週	同上	日本の事例(拓銀の破綻) レポート課題(2)
第11週	第7章 資産の拘束と長期停滞	
第12週	第8章 大恐慌と昭和恐慌	現代日本の金融政策
第13週	同上	レジーム転換
第14週	第9章 世界大恐慌と金融政策；国際比較とインプリケーション	
第15週	総括	レポート課題(3)

《1群（経済・金融・商業系科目）》

科目名	環境経済研究A				
担当者名	池本 廣希				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

今日の環境問題に関して、有効な経済学の理論を学修する。

《授業の到達目標》

環境問題について経済学を環境経済学として応用できる能力をもつようになること。

《テキスト》

『地産地消の経済学』－生命系の世界からみた環境と経済－ 池本廣希 新泉社 2008年

《参考文献》

『人間復興の経済学』 Small is beautiful. E. F. シュマツハー

《成績評価の方法》

レポート（70%）と発表能力（30%）

《授業時間外学習》

テーマ研究に沿って授業時間外学習をする。

《備考》**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	ガイダンス
第 2 週	生命系の世界から見た環境と経済について考える
第 3 週	テキスト：「地産地消の経済学」の読み合わせⅠ
第 4 週	テキスト：「地産地消の経済学」の読み合わせⅡ
第 5 週	テキスト：「地産地消の経済学」の読み合わせⅢ
第 6 週	テキスト：「地産地消の経済学」の読み合わせⅣ
第 7 週	テキスト：「地産地消の経済学」の読み合わせⅤ
第 8 週	テーマ研究の中間報告
第 9 週	人間復興の経済学を読むⅠ
第 10 週	人間復興の経済学を読むⅡ
第 11 週	人間復興の経済学を読むⅢ
第 12 週	「コモンズ（共有地）の悲劇」について
第 13 週	「市場の失敗」について
第 14 週	研究テーマの報告
第 15 週	まとめ

《1群（経済・金融・商業系科目）》

科目名	環境経済研究B				
担当者名	池本 廣希				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

環境経済研究Ⅰを踏まえて、環境問題についてテーマ研究にあたる。

《授業の到達目標》

環境問題に関するテーマ研究内容をパワーポイントで編集し、創造的研究活動の成果を出すこと。

《テキスト》

『地産地消の経済学』池本廣希 新泉社 2008年

《参考文献》**《成績評価の方法》**

テーマ研究成果の発表（80%）と意見交換能力（20%）

《授業時間外学習》

テーマ研究に沿った調査研究活動を授業時間外学習として課す。

《備考》**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	ガイダンス テーマ研究の方法
第 2 週	研究テーマの設定
第 3 週	テーマに沿った研究の個別指導
第 4 週	研究活動Ⅰ
第 5 週	研究活動Ⅱ
第 6 週	研究活動Ⅲ
第 7 週	研究活動Ⅳ
第 8 週	テーマ研究の進捗状況の報告会
第 9 週	テーマ研究活動Ⅰ
第 10 週	テーマ研究活動Ⅱ
第 11 週	テーマ研究活動Ⅲ
第 12 週	テーマ研究活動Ⅳ
第 13 週	テーマ研究の最終報告
第 14 週	テーマ研究発表会
第 15 週	まとめ

《1群（経済・金融・商業系科目）》

科目名	産業組織研究A				
担当者名	石原 敬子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

産業組織論（Industrial Organization）は、現実の諸産業を研究対象とする経済学の一領域である。ここでは、たんに現状を分析するにとどまらず、さらに進んで政策のあり方を論じることが多い。事実、この領域での研究成果は、現実の競争政策や規制改革の理論的基礎を提供している。

この授業では、テキストを輪読しながら、カルテルや談合がもたらす弊害、企業の合併・買収、垂直統合のもたらす経済効果など諸産業でみられる問題について理論的に考察するとともに、現実の競争政策の動向も取り上げ勉強する。授業では各時間ごとに報告者を割り当て、テキストの担当箇所について順次レジュメを作成して報告してもらい、これに基づいて種々議論しながら理解を深めていきたい。

《授業の到達目標》

- ・産業組織論の分析体系およびこの領域での新しい動向について学ぶ。
- ・競争政策や規制改革など、現実産業に対する政策のあり方について分析するための専門知識・理論を身につける。

《テキスト》

小田切宏之著『競争政策論 独占禁止法事例とともに学ぶ産業組織論』日本評論社、2008年。

《参考文献》

D. W. Carlton & J. M. Perloff, Modern Industrial Organization, 4th ed., Pearson Higher Education, 2005.
 W. G. Shepherd & J. M. Shepherd, The Economics of Industrial Organization, 5th ed., Waveland Press, Inc., 2004.
 その他、授業時に適宜紹介する。

《成績評価の方法》

授業への参加の姿勢、授業時に行う報告の内容、学期末のレポートをもって行う。評価の割合は、授業への参加の姿勢 30%、報告内容 20%、レポート 50%とする。

なお、出席率が70%に満たない場合、報告を行わなかった場合、レポートを提出しなかった場合には単位を与えないので注意すること。

《授業時間外学習》

- ・あらかじめ次の授業で勉強する内容を伝えるので、テキストの該当箇所を熟読しておくこと。
- ・経済理論に関する学習は、積み重ねが重要である。授業で学んだ内容についてはしっかりと復習すること。

《備考》

上述のように、授業では各時間ごとに報告者を割り当てテキストの担当箇所について順次レジュメを作成して報告してもらおうが、割り当てられた箇所以外についても必ず熟読して出席すること。

なお、授業計画は以下の通りであるが、状況に応じて受講者と相談の上、授業内容を変更する場合がある。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	授業の概要説明
第 2 週	市場経済における競争の役割
第 3 週	産業組織論の分析枠組
第 4 週	競争政策とは
第 5 週	カルテル・談合に関する考察
第 6 週	コンテストブル市場理論と参入阻止戦略
第 7 週	独占問題に関する考察
第 8 週	合併・買収に関する考察
第 9 週	垂直的取引制限に関する考察
第 10 週	廉価販売に関する考察
第 11 週	優越的地位の濫用について
第 12 週	イノベーションと知的財産権
第 13 週	公益事業における競争
第 14 週	レポートの内容に関する中間報告
第 15 週	レポートの内容に関する報告

《1群（経済・金融・商業系科目）》

科目名	産業組織研究B				
担当者名	石原 敬子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

競争政策（独占禁止政策）は今日、自由主義経済体制において根本的に重要な経済政策と位置づけられている。この授業では、競争政策の理論的根拠について勉強するとともに、アメリカの反トラスト政策、日本の独占禁止政策をとりあげながら、現実の独占問題や合併規制、カルテル規制をめぐる問題などを検討し、競争政策の方向性について考察したい。

《授業の到達目標》

- ・競争政策の原理（さまざまな学派の政策論）について理解し、現実の問題について深く考察するための専門知識を身につける。
- ・現実の競争政策の動向、政策施行に伴う問題について経済学の理論に基づいて考察できるようになる。

《テキスト》

下記の参考文献の中から、受講者と相談して決定する。
 （使用するテキストによって、下記の授業計画を若干変更する可能性がある）

《参考文献》

岡田羊祐・林秀弥編『独禁法の経済学』東京大学出版会、2009年。
 後藤晃・鈴木興太郎編『日本の競争政策』東京大学出版会、1999年。
 滝川敏明著『日米 EU の独禁法と競争政策[第3版]』青林書院、2006年。
 石原敬子著『競争政策の原理と現実』晃洋書房、1997年。
 W. G. Shepherd & J. M. Shepherd, The Economics of Industrial Organization, 5th ed., Waveland Press, Inc., 2004.
 W. K. Viscusi, J. E. Harrington, Jr. & J. M. Vernon Economics of Regulation and Antitrust, 4th ed., The MIT Press, 2005.
 その他、授業時に適宜紹介する。

《成績評価の方法》

授業への参加の姿勢、授業時に行う報告の内容、学期末のレポートをもって行う。評価の割合は、授業への参加の姿勢 30%、報告内容 20%、レポート 50%とする。
 なお、出席率が 70%に満たない場合、報告を行わなかった場合、レポートを提出しなかった場合には単位を与えないので注意すること。

《授業時間外学習》

- ・あらかじめ授業内容について知らせるので、テキストの該当箇所について熟読しておくこと。
- ・毎回の授業内容についてテキストをもう一度読み直してしっかりと復習し、理解を深めるように努めること。

《備考》

上述のように、授業では各時間ごとに報告者を割り当てテキストの担当箇所について順次レジュメを作成して報告してもらおうが、割り当てられた箇所以外についても必ず熟読して出席すること。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	授業の概要説明
第 2 週	競争政策の原理に関する考察 (1) : ハーバード学派の政策論
第 3 週	競争政策の原理に関する考察 (2) : シカゴ学派の政策論
第 4 週	競争政策の原理に関する考察 (3) : 新オーストリア学派の政策論
第 5 週	競争政策の原理に関する考察 (4) : 取引費用理論と競争政策
第 6 週	独占問題に対する政策 (1)
第 7 週	独占問題に対する政策 (2)
第 8 週	合併規制 (1)
第 9 週	合併規制 (2)
第 10 週	カルテル規制 (1)
第 11 週	カルテル規制 (2)
第 12 週	日米の競争政策の比較 (1)
第 13 週	日米の競争政策の比較 (2)
第 14 週	レポートの内容に関する中間報告
第 15 週	レポートの内容に関する報告

《1群（経済・金融・商業系科目）》

科目名	国際関係研究A				
担当者名	斎藤 正寿				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

経済系の研究を志向される学生諸君に、経済と政治の密接な関係、とりわけ近代主権国家をプレイヤーとする国民経済をめぐるロー・ポリティクスについての明快な視野を得ていただくために、本演習を開講します。国際関係論がカバーするディシプリンや研究対象は多岐にわたりますが、その中で上記の問題を研究する領域を国際政治経済学（International Political Economy）と呼びます。この国際政治経済学の「古典」をじっくりと読んでいきたいと思ひます。

《授業の到達目標》

政治経済学の基本的な考え方が修得できる。

《テキスト》

Robert Gilpin, 1987. The Political Economy of International Relations

《参考文献》

演習の中で適宜紹介します。

《成績評価の方法》

毎演習の中での報告内容（70%）とレポート（30%）によって評価をします。

《授業時間外学習》

毎週、一定量の英語論文を読んで理解した上で、演習に参加する必要があります。

《備考》

以下にあげるテキストを、受講者で輪読しながら演習を進めていきます。演習に参加するのに特別な国際関係論の知識は必要ありません。知識を補っていくための参考文献は適宜紹介していきます。しかし見ておわかりの通りテキストは英語ですので、英語が全くダメという方には向かない演習です。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	テキストの輪読・内容の議論
第 2 週	テキストの輪読・内容の議論
第 3 週	テキストの輪読・内容の議論
第 4 週	テキストの輪読・内容の議論
第 5 週	テキストの輪読・内容の議論
第 6 週	テキストの輪読・内容の議論
第 7 週	テキストの輪読・内容の議論
第 8 週	テキストの輪読・内容の議論
第 9 週	テキストの輪読・内容の議論
第 10 週	テキストの輪読・内容の議論
第 11 週	テキストの輪読・内容の議論
第 12 週	テキストの輪読・内容の議論
第 13 週	テキストの輪読・内容の議論
第 14 週	テキストの輪読・内容の議論
第 15 週	テキストの輪読・内容の議論

《1群（経済・金融・商業系科目）》

科目名	国際関係研究B				
担当者名	斎藤 正寿				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

基本的には先学期の国際関係研究Aの方針を承けて、国際経済と国際政治の密接な関係に注目していきますが、先学期より少しだけ政治の方向へ力点を移動して、近代主権国家の来し方行く末を学生諸君と一緒に考えていきたいと思ひます。さしあたり、国家論の教科書を輪読しながら議論を進めていきます。

《授業の到達目標》

国家をめぐる政治学的な基本的議論を修得できる。

《テキスト》

Christopher Pierson, 1996. The Modern State

《参考文献》

演習の中で適宜紹介します。

《成績評価の方法》

毎演習の中での報告内容（70%）とレポート（30%）によって評価をします。

《授業時間外学習》

毎週、一定量の英語論文を読んで理解した上で、演習に参加する必要があります。

《備考》

上記のテキストを、受講者で輪読しながら演習を進めていきます。演習に参加するのに特別な国際関係論の知識は必要ありません。知識を補っていくための参考文献は適宜紹介していきます。しかし見ておわかりの通りテキストは英語ですので、英語が全くダメという方には向かない演習です。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	テキストの輪読・内容の議論
第 2 週	テキストの輪読・内容の議論
第 3 週	テキストの輪読・内容の議論
第 4 週	テキストの輪読・内容の議論
第 5 週	テキストの輪読・内容の議論
第 6 週	テキストの輪読・内容の議論
第 7 週	テキストの輪読・内容の議論
第 8 週	テキストの輪読・内容の議論
第 9 週	テキストの輪読・内容の議論
第 10 週	テキストの輪読・内容の議論
第 11 週	テキストの輪読・内容の議論
第 12 週	テキストの輪読・内容の議論
第 13 週	テキストの輪読・内容の議論
第 14 週	テキストの輪読・内容の議論
第 15 週	テキストの輪読・内容の議論

《1群（経済・金融・商業系科目）》

科目名	地域経済研究A				
担当者名	田端 和彦				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

地域経済に関する日本語のテキスト、論文を輪読します。

《授業の到達目標》

地域格差や地域開発などの地域経済の課題を理解し、解説することができる。

《テキスト》

コピーを配布します。

《参考文献》

授業内で指示します。

《成績評価の方法》

日常点（報告内容、レジュメの内容）及びレポート

《授業時間外学習》

レジュメの作成など報告の準備が必要である。

《備考》**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	ガイダンス、書籍や論文の決定。
第 2 週	輪読。
第 3 週	輪読。
第 4 週	輪読。
第 5 週	輪読。
第 6 週	輪読。
第 7 週	輪読。
第 8 週	輪読。
第 9 週	輪読。
第 10 週	輪読。
第 11 週	輪読。
第 12 週	輪読。
第 13 週	輪読。
第 14 週	輪読。
第 15 週	輪読。

《1群（経済・金融・商業系科目）》

科目名	地域経済研究B				
担当者名	田端 和彦				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

地域経済に関する英語文献（Regional Study などの専門雑誌の英語論文）を読み、英語に慣れるとともに、海外の都市政策について学びます。

《授業の到達目標》

地域経済に関連する英語のテクニカルタームを使うことができる。
諸外国における地域経済、地域経済分析について理解する。

《テキスト》

コピーを配布します。

《参考文献》

授業内で指示します。

《成績評価の方法》

日常点（報告内容、レジュメの内容）及びレポート。

《授業時間外学習》

レジュメの作成など報告の準備が必要である。

《備考》**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	ガイダンス、書籍や論文の決定。
第 2 週	輪読。
第 3 週	輪読。
第 4 週	輪読。
第 5 週	輪読。
第 6 週	輪読。
第 7 週	輪読。
第 8 週	輪読。
第 9 週	輪読。
第 10 週	輪読。
第 11 週	輪読。
第 12 週	輪読。
第 13 週	輪読。
第 14 週	輪読。
第 15 週	輪読。

《1群（経済・金融・商業系科目）》

科目名	地域政策研究A				
担当者名	瀧本 眞一				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

資料に基づいて、講義や演習、討論などによって進めていく。

《授業の到達目標》

現在の社会経済状況下で、「地域」や「都市」が、新しい経済や政治構成要素として注目を集めている。そこで、戦後日本の地域開発政策を検証しながら、さまざまな構造変化を後付けすることで、地域問題の原点を探っていく。特に、地域や都市類型に即して、地域経済の動向と地域政策展開の意義と問題点を検証する。

《テキスト》

特にテキストは使用せず、授業の進捗にあわせてプリントを配布する。

《参考文献》

適宜、紹介します。

《成績評価の方法》

数回を予定しているレポート（100％）によって評価する。

《授業時間外学習》

特に指定はしませんが、地域問題についての新聞・雑誌・図書をよく読み、地域問題についての知識を深めてください。

《備考》

特にありませんが、新聞・雑誌などで「まちづくり」に関する知識を深めてください。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	ガイダンス
第 2 週	文献読破
第 3 週	文献読破
第 4 週	文献読破
第 5 週	レポート作成と提出
第 6 週	文献読破
第 7 週	文献読破
第 8 週	文献読破
第 9 週	文献読破
第 10 週	レポート作成と提出
第 11 週	文献読破
第 12 週	文献読破
第 13 週	文献読破
第 14 週	文献読破
第 15 週	レポート作成と提出

《1群（経済・金融・商業系科目）》

科目名	地域政策研究B				
担当者名	瀧本 眞一				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

資料に基づいて、講義や演習、討論などによって進めていく。

《授業の到達目標》

地域政策研究Aの成果をふまえて、碎いてきなエリアを取り上げケーススタディをおこなう。対使用地域の社会経済構造の変化を各種資料から多面的に取り上げて定性的・定量的に分析し、地域政策の効果を具体的に検証する。

《テキスト》

特にテキストは使用せず、授業の進捗にあわせてプリントを配布する。

《参考文献》

適宜、紹介します。

《成績評価の方法》

ケーススタディ（100%）の成果によって評価する。

《授業時間外学習》

特に指定はしませんが、地域問題についての新聞・雑誌・図書をよく読み、地域問題についての知識を深めてください。

《備考》

特にありませんが、新聞・雑誌などで「まちづくり」に関する知識を深めてください。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	ガイダンス
第 2 週	ケーススタディの地域設定
第 3 週	ケーススタディ地域の調査分析
第 4 週	ケーススタディ地域の調査分析
第 5 週	ケーススタディ地域の調査分析
第 6 週	ケーススタディ地域の調査分析
第 7 週	ケーススタディ地域の調査分析
第 8 週	ケーススタディの中間発表
第 9 週	ケーススタディ地域の調査分析
第 10 週	ケーススタディ地域の調査分析
第 11 週	ケーススタディ地域の調査分析
第 12 週	ケーススタディ地域の調査分析
第 13 週	ケーススタディ地域の調査分析
第 14 週	ケーススタディ地域の調査分析
第 15 週	ケーススタディの最終発表

《1群（経済・金融・商業系科目）》

科目名	社会政策研究A				
担当者名	河野 真				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

社会政策は国民生活の安定と向上を目指し、新たな社会問題の出現とともに守備範囲を拡大してきた。本講では社会政策を福祉国家政策として捉え、その構造的特質や制度的発展の社会・経済・政治的背景、さらには福祉多元化に代表される福祉国家政策の今日的動向等を国際比較の視点から考察する。
社会政策研究Aでは、福祉国家のアウトカム分析に関する諸理論が中心課題となる。

《授業の到達目標》

代表的な福祉国家理論、政治学理論、福祉多元主義理論の学習を通じて、福祉国家のアウトカム分析の基礎的な手法と類型分類の知識を身につける。

《テキスト》

テキストは使用しない。

《参考文献》

講義冒頭に文献目録を配布する。

《成績評価の方法》

期末のレポートおよびプレゼンテーション 70%、達成度 30%（各分野の学習前に課すレポート課題により評価する）。

《授業時間外学習》

限られた期間で、広範な知識を身につけなければならない。課題レポート作成を通じた予習が単位取得の必須の要件となる。講義受講に先立ち参考資料・参考文献は必ず熟読しておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション：講義の課題と対象
第 2 週	福祉国家論（福祉国家分析アプローチ1） 産業化理論
第 3 週	福祉国家論（福祉国家分析アプローチ2） 権力資源論・コーポラティズム
第 4 週	福祉国家論（福祉国家分析アプローチ3） 権力資源論・コーポラティズム
第 5 週	福祉国家論（福祉国家分析アプローチ4） 福祉レジーム論1
第 6 週	福祉国家論（福祉国家分析アプローチ5） 福祉レジーム論2
第 7 週	福祉国家論（福祉国家分析アプローチ6） 福祉レジーム論3
第 8 週	政治学理論（福祉国家分析アプローチ7） 国家論と政治過程分析アプローチ1
第 9 週	政治学理論（福祉国家分析アプローチ8） 国家論と政治過程分析アプローチ2
第10週	福祉多元主義理論（福祉国家分析アプローチ9） ウェルフェアミックスアプローチ1
第11週	福祉多元主義理論（福祉国家分析アプローチ10） ウェルフェアミックスアプローチ2
第12週	新しい接近方法1 クオリティオブライフ・アプローチ
第13週	新しい接近方法2 ソーシャルクオリティ・アプローチ1
第14週	新しい接近方法3 ソーシャルクオリティ・アプローチ2
第15週	プレゼンテーション，研究のまとめ

《1群（経済・金融・商業系科目）》

科目名	社会政策研究B				
担当者名	河野 真				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

社会政策は国民生活の安定と向上を目指し、新たな社会問題の出現とともに守備範囲を拡大してきた。本講では社会政策を福祉国家政策として捉え、その構造的特質や制度的発展の社会・経済・政治的背景、さらには福祉多元化に代表される福祉国家政策の今日的動向等を国際比較の視点から考察する。

社会政策研究Bでは、福祉国家政策の趨勢、日本型福祉システムの特徴、福祉国家制度形成要因分析に関する諸理論が中心課題となる。

《授業の到達目標》

代表的な福祉国家理論、政治学理論、福祉多元主義理論の学習を通じて、制度形成要因分析の基礎的な手法を身につける。

《テキスト》

テキストは使用しない。

《参考文献》

講義冒頭に文献目録を配布する。

《成績評価の方法》

期末のレポートおよびプレゼンテーション 70%、達成度 30%（各分野の学習前に課すレポート課題により評価する）。

《授業時間外学習》

限られた期間で、広範な知識を身につけなければならない。課題レポート作成を通じた予習が単位取得の必須の要件となる。講義受講に先立ち参考資料・参考文献は必ず熟読しておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション：講義の課題と対象
第 2 週	福祉国家制度改正の趨勢
第 3 週	比較福祉制度分析 1
第 4 週	比較福祉制度分析 2
第 5 週	日本型福祉システムの特徴 1
第 6 週	日本型福祉システムの特徴 2
第 7 週	日本型福祉システムの特徴 3
第 8 週	福祉国家制度形成要因分析 1 (経済的要因 1)
第 9 週	福祉国家制度形成要因分析 2 (経済的要因 2)
第 10 週	福祉国家制度形成要因分析 3 (社会文化的要因 1)
第 11 週	福祉国家制度形成要因分析 4 (社会文化的要因 2)
第 12 週	福祉国家制度形成要因分析 5 (政治的要因 1)
第 13 週	福祉国家制度形成要因分析 6 (政治的要因 2)
第 14 週	福祉国家制度形成要因分析 7 (政治的要因 3)
第 15 週	プレゼンテーション、研究のまとめ

《1群（経済・金融・商業系科目）》

科目名	証券市場研究A				
担当者名	高本 茂				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

現代の証券市場について、モダンポートフォリオ理論（MPT）にもとづいて講義する。

《授業の到達目標》

証券についての理論経済学をマスターする。

《テキスト》

久保田敬一『ポートフォリオ理論』（日本経済評論社）

《参考文献》

特になし。

《成績評価の方法》

日常の学習態度（50%）、レポート・課題（50%）

《授業時間外学習》

株価の動きを常に注目すること。

《備考》

日経新聞を読みこなすこと。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	1. 投資家行動と分散化投資（1）
第 2 週	投資家行動と分散化投資（2）
第 3 週	2. ポートフォリオ理論の基礎（1）
第 4 週	ポートフォリオ理論の基礎（2）
第 5 週	3. 市場効率性仮説と資本市場（1）
第 6 週	市場効率性仮説と資本市場（2）
第 7 週	4. わが国の資本市場と市場効率性（1）
第 8 週	わが国の資本市場と市場効率性（2）
第 9 週	5. オプション証券の理論（1）
第10週	オプション証券の理論（2）
第11週	6. 資本市場均衡理論（1）
第12週	資本市場均衡理論（2）
第13週	7. 危険分散と最適性（1）
第14週	危険分散と最適性（2）
第15週	復習とまとめ

《1群（経済・金融・商業系科目）》

科目名	証券市場研究B				
担当者名	高本 茂				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

金融派生商品（デリバティブ）の意義と危険性について講義する。（変更の場合あり）。

《授業の到達目標》

先物取引、オプション取引の専門的知識を身につけるようにする。

《テキスト》

岩田暁一『先物とオプションの理論』（東洋経済新報社）

《参考文献》

特になし。

《成績評価の方法》

日常の学習態度（50%）、レポート・課題（50%）

《授業時間外学習》

株価の動きに常に注目すること。

《備考》

日本経済新聞を読みこなしなさい。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	1. 序論
第 2 週	2. 不確実性下の価格決定（1）
第 3 週	不確実性下の価格決定（2）
第 4 週	3. 先物理論の展望（1）
第 5 週	先物理論の展望（2）
第 6 週	4. 先物価格の分布（1）
第 7 週	先物価格の分布（2）
第 8 週	5. オプションとBSモデル（1）
第 9 週	オプションとBSモデル（2）
第10週	6. オプション理論の検討（1）
第11週	オプション理論の検討（2）
第12週	7. 先物オプションの予備的分析
第13週	8. 個体間分布の理論
第14週	9. 個体間分布模型の実証
第15週	10. 予想理論の方向

《2群（経営・会計系科目）》

科目名	経営学研究A				
担当者名	竹川 宏子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

経済は好況と不況を繰り返している。そのような景気の変動の中で企業を存続させ、成長させることが大変困難であることは、昨今の大手企業の倒産を見れば明らかである。しかしながら、厳しい経済状況であるにもかかわらず、利益をあげている企業もまた存在する。その成長をもたらしているものは何か？ それはその企業の経営戦略を見れば明らかになる。そこでこの授業では、経営戦略論を中心にテキストの輪読を通じて、経営学の基礎的を学ぶとともに、現代社会における具体的な現象を経営学的視点から捉える力を養う。

《授業の到達目標》

- 実際の社会で観察される様々な企業行動を理解するために必要な経営学の基礎理論を説明できる。
- 経営戦略の基礎的な理論を理解し、これからの企業のあり方や企業社会について自ら考える力を養うことができる。

《テキスト》

グロービス・マネジメント・インスティテュート 編『MBA経営戦略』ダイヤモンド社、1999年。

《参考文献》

- 榊原清則 著『経営学入門 [上]』日本経済新聞社、2002年。
- 榊原清則 著『経営学入門 [下]』日本経済新聞社、2002年。
- 伊丹敬之、加護野忠男 著『ゼミナール経営学入門 第3版』2003年。

《成績評価の方法》

平常点（テキストのまとめ作成と報告）を60%、授業内ディスカッションを10%、レポート作成を30%として評価する。

《授業時間外学習》

連絡用のメールアドレスは、第1回講義の際に伝える。
 予習は、テキストのまとめ作成。復習は、まとめを報告したものについて授業中にディスカッションする中で生じた疑問や問題点などを次回までに調べてくること。

《備考》

経営学は実学であるから、現実社会の企業関連ニュースに対して、常に関心を持って接することが必要である。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	授業の概要の説明（経営学とは何か、経営学を学ぶ意義）
第2週	テキストの輪読、ディスカッション（経営戦略とは何か）
第3週	テキストの輪読、ディスカッション（戦略の階層と構成要素）
第4週	テキストの輪読、ディスカッション（経営理念、ビジョン）
第5週	テキストの輪読、ディスカッション（企業ドメイン、コア・コンピタンス）
第6週	テキストの輪読、ディスカッション（戦略策定プロセス）
第7週	テキストの輪読、ディスカッション（事業ポートフォリオ戦略）
第8週	テキストの輪読、ディスカッション（多角化戦略）
第9週	テキストの輪読、ディスカッション（経営戦略の分析ツール）
第10週	テキストの輪読、ディスカッション（企業の外部分析）
第11週	テキストの輪読、ディスカッション（企業の内部分析）
第12週	テキストの輪読、ディスカッション（戦略の基本パターン；ポーターの3つの基本戦略）
第13週	テキストの輪読、ディスカッション（戦略の基本パターン；競争上の地位と戦略パターン）
第14週	テキストの輪読、ディスカッション（グローバル戦略）
第15週	レポートの発表、授業のまとめ

《2群（経営・会計系科目）》

科目名	経営学研究B				
担当者名	竹川 宏子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

多くの企業にとって経営のグローバル化は避けて通れない流れである。国際経営論を学ぶことは、現代社会における企業経営を理解することにつながることから、この授業では、国際経営を中心的課題として扱う。まず、経営管理論と組織論を基礎に置きながら、多国籍企業（グローバル企業）に関する議論の流れを学ぶ。つぎに、国際経営戦略およびマネジメントの基本的理解を深める。最終的な目標としては、日本企業のグローバル化のあり方について、受講生自らが考察できる力をつけることを目指す。テキストの輪読、ディスカッションを交えながら進めていく。

《授業の到達目標》

- 国際経営の基礎的な理論を理解することができる。
- 企業のグローバルな行動について理論的に考える力を養うことができる。

《テキスト》

池田芳彦、茂垣広志、根本孝 編著『国際経営を学ぶ人のために』世界思想社、2001年。

《参考文献》

安室憲一 編著『新グローバル経営論』白桃書房、2007年。

《成績評価の方法》

平常点（テキストのまとめ作成と報告）を60%、授業内ディスカッションを10%、レポート作成を30%として評価する。

《授業時間外学習》

連絡用のメールアドレスは、第1回講義の際に伝える。
 予習は、テキストのまとめ作成。
 復習は、まとめを報告したものについて授業中にディスカッションする中で生じた疑問や問題点などを次回までに調べてくること。

《備考》

経営学は実学であるから、現実社会の企業関連ニュースに対して、常に関心を持って接することが必要である。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	授業概要の説明（経営学とは何か、国際経営論を学ぶ意義）
第2週	テキストの輪読、ディスカッション（グローカリゼーションと国際経営）
第3週	テキストの輪読、ディスカッション（企業の国際化理論；事業展開パターン）
第4週	テキストの輪読、ディスカッション（企業の国際化理論；バーノンモデル、EPRGモデル）
第5週	テキストの輪読、ディスカッション（企業の国際化理論；内部化理論と折衷理論）
第6週	テキストの輪読、ディスカッション（国際経営における研究開発）
第7週	テキストの輪読、ディスカッション（国際提携戦略）
第8週	テキストの輪読、ディスカッション（国際マーケティング戦略）
第9週	テキストの輪読、ディスカッション（国際調達・生産戦略）
第10週	テキストの輪読、ディスカッション（グローバル・グループ経営）
第11週	テキストの輪読、ディスカッション（国際企業文化）
第12週	テキストの輪読、ディスカッション（国際人事管理）
第13週	テキストの輪読、ディスカッション（国際人材開発）
第14週	テキストの輪読、ディスカッション（日本型経営のグローバリゼーション）
第15週	レポートの発表、授業のまとめ

《2群（経営・会計系科目）》

科目名	税務会計研究A				
担当者名	三宅 伸二				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

法人税法の基礎概念の習得と利益計算の基礎を習得する。特に、企業会計上の利益と法人税法上の所得の違いを確認し、企業会計上の利益から法人税法上の所得を導く過程を重要な概念を中心に学習する。

《授業の到達目標》

職業会計人として必要な法人税法の基礎知識の習得

《テキスト》

授業中に指示

《参考文献》

授業中に指示

《成績評価の方法》

発表等の授業への積極性（100%）

《授業時間外学習》

最新の会計事情について常に情報を吸収するよう勤めること

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	資産と償却 4（評価損）
第 2 週	資産と償却 5（圧縮記帳）
第 3 週	資産と償却 6（国庫補助金等で取得した資産の圧縮記帳）
第 4 週	資産と償却 7（保険金で取得した資産の圧縮記帳）
第 5 週	資産と償却 8（交換で取得した資産の圧縮記帳）
第 6 週	有価証券の譲渡
第 7 週	有価証券の評価
第 8 週	貸倒損失
第 9 週	貸倒引当金
第 10 週	賞与引当金
第 11 週	欠損金の繰越・繰戻し
第 12 週	税額計算の仕組み
第 13 週	同族会社の留保金課税
第 14 週	土地の譲渡
第 15 週	税額控除と申告手続き

《2群（経営・会計系科目）》

科目名	税務会計研究B				
担当者名	三宅 伸二				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

法人税法の基礎概念の習得と利益計算の基礎を習得する。特に、企業会計上の利益と法人税法上の所得の違いを確認し、企業会計上の利益から法人税法上の所得を導く過程を重要な概念を中心に学習する。

《授業の到達目標》

職業会計人として必要な法人税法の基礎知識の習得

《テキスト》

授業中に指示

《参考文献》

授業中に指示

《成績評価の方法》

発表等の授業への積極性（100%）

《授業時間外学習》

最新の会計事情について常に情報を吸収するよう勤めること

《備考》**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	資産と償却 4（評価損）
第 2 週	資産と償却 5（圧縮記帳）
第 3 週	資産と償却 6（国庫補助金等で取得した資産の圧縮記帳）
第 4 週	資産と償却 7（保険金で取得した資産の圧縮記帳）
第 5 週	資産と償却 8（交換で取得した資産の圧縮記帳）
第 6 週	有価証券の譲渡
第 7 週	有価証券の評価
第 8 週	貸倒損失
第 9 週	貸倒引当金
第 10 週	賞与引当金
第 11 週	欠損金の繰越・繰戻し
第 12 週	税額計算の仕組み
第 13 週	同族会社の留保金課税
第 14 週	土地の譲渡
第 15 週	税額控除と申告手続き

《2群（経営・会計系科目）》

科目名	地域計画研究A				
担当者名	田端 和彦				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

地域政策における地域の資源（ソーシャルキャピタル）の重要性を学びます。まちづくり、地域づくりに関わる行政とソーシャルキャピタルの関係の文献を読解します。具体的には、ソーシャルキャピタルをロバートパットナムの著作などを輪読します。

《授業の到達目標》

ソーシャルキャピタルの意義とそれが地域政策や地域住民に与える影響について理解することができる。

《テキスト》

ロバート・D・パットナム 河田潤一訳『哲学する民主主義』NTT出版
 宮川 公男、大守 隆『ソーシャル・キャピタル—現代経済社会のガバナンスの基礎』東洋経済新報社

《参考文献》

授業中に指定します。

《成績評価の方法》

最終レポート、レジュメや授業での発言などの日常点。

《授業時間外学習》

レジュメの作成など報告の準備が必要である。

《備考》**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	『哲学する民主主義』を輪読します。
第 2 週	『哲学する民主主義』を輪読します。
第 3 週	『哲学する民主主義』を輪読します。
第 4 週	『哲学する民主主義』を輪読します。
第 5 週	『哲学する民主主義』を輪読します。
第 6 週	『哲学する民主主義』を輪読します。
第 7 週	『哲学する民主主義』を輪読します。
第 8 週	『哲学する民主主義』を輪読します。
第 9 週	ソーシャル・キャピタル—現代経済社会のガバナンスの基礎』を輪読します。
第10週	ソーシャル・キャピタル—現代経済社会のガバナンスの基礎』を輪読します。
第11週	ソーシャル・キャピタル—現代経済社会のガバナンスの基礎』を輪読します。
第12週	ソーシャル・キャピタル—現代経済社会のガバナンスの基礎』を輪読します。
第13週	ソーシャル・キャピタル—現代経済社会のガバナンスの基礎』を輪読します。
第14週	ソーシャル・キャピタル—現代経済社会のガバナンスの基礎』を輪読します。
第15週	ソーシャル・キャピタル—現代経済社会のガバナンスの基礎』を輪読します。

《2群（経営・会計系科目）》

科目名	地域計画研究B				
担当者名	田端 和彦				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

地域政策及び経済についての分析の方法を中心に解説します。パソコンを使って地域経済を分析するための基本を学びます。EXCELの他、GISやSPSSなどのソフトについての使い方、その応用を学習します。

《授業の到達目標》

地域経済の分析についての方法、その意味を理解することができる。
パソコンにおけるGISソフトなどを使いこなすことができる。

《テキスト》

コピーを配布します。

《参考文献》

授業内で指示します。

《成績評価の方法》

日常点（報告内容、レジュメの内容）及びレポート。

《授業時間外学習》

パソコンでの課題の提出、予習、情報の収集が必要です。

《備考》**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	ガイダンス。
第 2 週	経済統計の分析。
第 3 週	経済統計の分析。
第 4 週	経済統計の分析。
第 5 週	経済統計の分析。
第 6 週	経済統計の分析。
第 7 週	GIS とメッシュ統計の分析。
第 8 週	GIS とメッシュ統計の分析。
第 9 週	GIS とメッシュ統計の分析。
第 10 週	GIS とメッシュ統計の分析。
第 11 週	GIS とメッシュ統計の分析。
第 12 週	アンケートの調査とその分析。
第 13 週	アンケートの調査とその分析。
第 14 週	アンケートの調査とその分析。
第 15 週	アンケートの調査とその分析。

《2群（経営・会計系科目）》

科目名	地域行政研究A				
担当者名	木下 準一郎				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

明治期の町村合併と平成期の市町村合併の比較をもとに、新しい地方自治の理念と制度について検討する。

《授業の到達目標》

わが国の地方自治の特質と課題を歴史的観点から理解することができる。

《テキスト》

『地方分権改革』 西尾勝 （東京大学出版会 2007年）

《参考文献》

『包括的地方自治ガバナンス改革』 村松岐夫 （東洋経済新報社 2003年）

『関西圏の地域主義と都市再編』 生田真人 （ミネルヴァ書房 2008年）

《成績評価の方法》

授業中の発表(50%)・討論(50%)により評価する。

授業を4回以上欠席した学生には単位を与えない。また20分以上の遅刻は欠席とみなす。

《授業時間外学習》

教科書の指定された箇所、あるいは指定された資料を読み、発表の準備を行う。

《備考》

オフィスアワーについては研究室（1W-112）のドアに貼り出しているので、質問や相談のある学生は指定した時間に訪ねてほしい。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	オリエンテーション（授業計画の説明および成績評価方法について）
第2週	履修者による報告と討論
第3週	履修者による報告と討論
第4週	履修者による報告と討論
第5週	履修者による報告と討論
第6週	履修者による報告と討論
第7週	履修者による報告と討論
第8週	履修者による報告と討論
第9週	履修者による報告と討論
第10週	履修者による報告と討論
第11週	履修者による報告と討論
第12週	履修者による報告と討論
第13週	履修者による報告と討論
第14週	履修者による報告と討論
第15週	学習のまとめ

《2群（経営・会計系科目）》

科目名	地域行政研究B				
担当者名	木下 準一郎				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

米国の連邦制の理念と仕組みについて学び、わが国の地方自治の受け皿としての可能性について検討する。

《授業の到達目標》

政府間関係の国際比較を通じて、わが国の地方制度の特徴を立体的な視点から把握することができる。

《テキスト》

資料を配布する。

《参考文献》

『The American Mosaic』 Daniel J. Elazar (Westview Press, 1994)

『地方政府のガバナンスに関する研究』 総合研究開発機構 (NIRA 研究報告 No.980117)

《成績評価の方法》

授業中の発表(50%)・討論(50%)により評価する。

授業を4回以上欠席した学生には単位を与えない。また20分以上の遅刻は欠席とみなす。

《授業時間外学習》

指定された資料を読み、発表の準備を行う。

《備考》

オフィスアワーについては研究室(1W-112)のドアに貼り出しているので、質問や相談のある学生は指定した時間に訪ねてほしい。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	オリエンテーション(授業計画の説明および成績評価方法について)
第2週	履修者による報告と討論
第3週	履修者による報告と討論
第4週	履修者による報告と討論
第5週	履修者による報告と討論
第6週	履修者による報告と討論
第7週	履修者による報告と討論
第8週	履修者による報告と討論
第9週	履修者による報告と討論
第10週	履修者による報告と討論
第11週	履修者による報告と討論
第12週	履修者による報告と討論
第13週	履修者による報告と討論
第14週	履修者による報告と討論
第15週	学習のまとめ

《3群（情報・数理系科目）》

科目名	情報システム研究 A				
担当者名	榎木 浩				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

生活や社会の至る所にコンピュータが存在し、コンピュータ同士が自律的に連携して動作することにより、人間の生活を強力にバックアップする情報環境として、ユビキタスコンピューティングが注目されている。本講義では、ユビキタスコンピューティングにおけるさまざまな情報システムの技術について学び、ユビキタスコンピューティングにより実現されるユビキタス社会の本質を明らかにすることを目標とする。

《授業の到達目標》

- ・ユビキタスコンピューティングに関する文献が読める
- ・ユビキタスコンピューティングに関するレポートが書ける

《テキスト》

適宜、プリント等を配布する。

《参考文献》

参考文献は輪読を進めながら紹介する。

《成績評価の方法》

平常の報告内容(50%)と最終レポート(50%)

《授業時間外学習》

文献に対する課題を実施すること。

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション、ユビキタスコンピューティングの説明
第 2 週	文献(1)の輪読
第 3 週	文献(1)の課題報告
第 4 週	文献(2)の輪読
第 5 週	文献(2)の課題報告
第 6 週	文献(3)の輪読
第 7 週	文献(3)の課題報告
第 8 週	文献(4)の輪読
第 9 週	文献(4)の課題報告
第 10 週	文献(5)の輪読
第 11 週	文献(5)の課題報告
第 12 週	文献(6)の輪読
第 13 週	文献(6)の課題報告
第 14 週	最終レポートの報告と質疑応答
第 15 週	最終レポートの報告と質疑応答

《3群（情報・数理系科目）》

科目名	情報システム研究B				
担当者名	榎木 浩				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

人間とコンピュータが深くかかわる今日の情報システムがいかに重要か、価値のある存在かは、システムが障害を起こしたり、利用できなくなったりする度に強く認識させられる。また、社会生活のクリティカルな部分を担えば担うほど、その安全性・信頼性・頑強性が強く求められる。本講義では、情報システムの開発と運用において、システムの信頼性を導く開発手法ならびに運用方法を学び、情報システムにとって何が重要かを明らかにすることを目標とする。

《授業の到達目標》

- ・情報システムの信頼性向上に関する文献が読める
- ・情報システムにとって重要なことに関するレポートが書ける

《テキスト》

適宜、プリント等を配布する。

《参考文献》

参考文献は輪読を進めながら紹介する。

《成績評価の方法》

平常の報告内容(50%)と最終レポート(50%)

《授業時間外学習》

文献に対する課題を実施すること。

《備考》**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション、情報システムの重要性を障害事例をもとに説明
第 2 週	文献(1)の輪読
第 3 週	文献(1)の課題報告
第 4 週	文献(2)の輪読
第 5 週	文献(2)の課題報告
第 6 週	文献(3)の輪読
第 7 週	文献(3)の課題報告
第 8 週	文献(4)の輪読
第 9 週	文献(4)の課題報告
第 10 週	文献(5)の輪読
第 11 週	文献(5)の課題報告
第 12 週	文献(6)の輪読
第 13 週	文献(6)の課題報告
第 14 週	最終レポートの報告と質疑応答
第 15 週	最終レポートの報告と質疑応答

《3群（情報・数理系科目）》

科目名	情報処理研究A				
担当者名	高野 敦子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

インターネット上の情報を価値化・知識化する技術に関してできる限り新しい動向を紹介します。さらに、簡単なスクリプト言語を用いた実習によって理解を深めます。

《授業の到達目標》

情報化の浸透やインターネットの普及により、私たちが入手できる情報量は爆発的に増加しています。特にインターネット上では、今まで情報を発信してきた企業や専門家に加えて、Blogや掲示板を使って一般消費者によって発せられた情報に重要性にも注目が集まっています。このような情報をより有効に利用するために重要になるのは、情報を収集・抽出する技術、分析・評価する技術、そして実社会において活用する技術です。そのような技術に関する最近の研究を知ることができます。

《テキスト》

特に用いません。

《参考文献》

適宜紹介します。

《成績評価の方法》

毎回のレポート（40%）と期末のレポート（60%）で行います。

《授業時間外学習》

実習、研究に必要な調査は授業時間外に行ってもらいます。

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	CGM の現状
第 2 週	自然言語処理
第 3 週	CGM マイニング
第 4 週	CGM マイニングと知識化
第 5 週	チャンス発見技術
第 6 週	オントロジー
第 7 週	オントロジーに基づく知識の構造化
第 8 週	オントロジーに基づく知識の構造化
第 9 週	知識の可視化
第 10 週	知識の可視化
第 11 週	学習のまとめ
第 12 週	実習
第 13 週	実習
第 14 週	実習
第 15 週	実習

《3群（情報・数理系科目）》

科目名	情報処理研究B				
担当者名	高野 敦子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

コンピュータに理解可能な情報を Web 情報に付加する仕組みとして、セマンティック Web やメタ情報について、Web 上に公開されているツールを使いながら、その意味を体験し、これからの Web のあり方について考えます。

《授業の到達目標》

今や Web はあらゆる情報提供・発信・交換のための社会基盤としてなくてはならないものになっています。しかし、情報量が増えるに従って、目的とする Web の情報を探し出すことが困難になってきています。その問題を解決するためには、Web 上の情報をコンピュータに処理させる新たな仕組みが必要です。コンピュータに情報の意味までを理解させることは困難です。であるならば、コンピュータにも理解可能な形の情報を付加する仕組みがあればいいのではないでしょうか。そのような仕組みについて知ることができます。

《テキスト》

特に使用しません。

《参考文献》

適宜紹介します。

《成績評価の方法》

毎回のレポート（40%）と期末のレポート（60%）で行います。

《授業時間外学習》

実習、研究に必要な調査は授業時間外に行ってもらいます。

《備考》**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	インターネットの現状と情報検索
第 2 週	セマンティック Web とは
第 3 週	XML の基本
第 4 週	XML の応用
第 5 週	メタデータ
第 6 週	メタデータ
第 7 週	オントロジーとは
第 8 週	オントロジーの具体例
第 9 週	セマンティック Web ツール
第 10 週	セマンティック Web ツール
第 11 週	ブログと RSS
第 12 週	ユビキタス環境に適した Web サイト
第 13 週	セマンティック Web の応用
第 14 週	セマンティック Web の応用
第 15 週	学習のまとめ

《3群（情報・数理系科目）》

科目名	情報伝達研究A				
担当者名	榎木 浩				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

情報伝達とは発信源で生じた情報を、そのまま、または加工して目的とする場所（時代）に正確に伝えるシステムの総称である。昔は特定の個人（時として集団から指名された斥候のような）を発信源として、意思を表す言葉や絵画（壁画など）、形象文字、烽火などで意思情報を発信しており、受信側としては個人や集団（一国の大名など）さらには未来の大衆であったりする。現在は、ITで代表されるコンピュータによる情報通信が加わった。往々にして情報伝達は、情報通信と混同されがちであるが、情報通信をこのなかを含むことこそすれ、それにも増してもっと広い意味を有する言葉である。本研究では、代表的な発信源、伝達方式、および受信技術を一連の情報伝達と捕らえ、これを学習する。

《授業の到達目標》

- ・「情報とは何か」について情報と情報量が説明できる。
- ・アナログ/デジタル伝送方式や受信方式が説明できる。
- ・電話音声、画像および光信号は情報源としてどのように表されるか説明できる。

《テキスト》

適宜、プリント等を配布する。

《参考文献》

適宜、紹介する。

《成績評価の方法》

平常の報告内容(50%)と最終レポート(50%)

《授業時間外学習》

文献に対する課題を実施すること。

《備考》

情報伝達技術は、年々進歩して、例えば、経済・経営分野ではインターネット株取引などのIT産業が主流になるだろう。他の産業分野でもIT技術がその底流を支えたと考えられる。本研究を受講しておくことは将来大いに役立つであろう。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション
第 2 週	文献(1)の輪読
第 3 週	文献(1)の課題報告
第 4 週	文献(2)の輪読
第 5 週	文献(2)の課題報告
第 6 週	文献(3)の輪読
第 7 週	文献(3)の課題報告
第 8 週	文献(4)の輪読
第 9 週	文献(4)の課題報告
第 10 週	文献(5)の輪読
第 11 週	文献(5)の課題報告
第 12 週	文献(6)の輪読
第 13 週	文献(6)の課題報告
第 14 週	最終レポートの報告と質疑応答
第 15 週	最終レポートの報告と質疑応答

《3群（情報・数理系科目）》

科目名	情報伝達研究B				
担当者名	榎木 浩				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

情報伝達とは（自分の）意志を相手に正確に伝える事柄を指す。意志を伝えるのは情報分野だけでなく、経済・金融・産業界など全ての分野で稟議（りんぎ）と云う形で上達するのが普通である。これは真しく情報伝達である。その代表例として情報の上達（伝達）手法を学習する。

情報処理技術や計算機科学、対象業務に関する学問分野、利用者である人間に関する認知心理学や社会心理学分野等と密接に関係を持ち、それらを横断的に繋ぐ技術が情報システム工学として発達しつつあり、新しい学問分野として形成されつつある。このような現状を踏まえて、情報システムの手法を中心に、その概要を学習する。

《授業の到達目標》

- ・情報の上達手法が説明できる。
- ・情報伝達の認知学、心理学、社会学との関わりが説明できる。

《テキスト》

適宜、プリント等を配布する。

《参考文献》

適宜、紹介する。

《成績評価の方法》

平常の報告内容(50%)と最終レポート(50%)

《授業時間外学習》

文献に対する課題を実施すること。

《備考》

システムは情報分野だけでなく、文系の経済・経営システムの構築にもこの理論が用いられるので、受講することを奨める。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション
第 2 週	文献(1)の輪読
第 3 週	文献(1)の課題報告
第 4 週	文献(2)の輪読
第 5 週	文献(2)の課題報告
第 6 週	文献(3)の輪読
第 7 週	文献(3)の課題報告
第 8 週	文献(4)の輪読
第 9 週	文献(4)の課題報告
第 10 週	文献(5)の輪読
第 11 週	文献(5)の課題報告
第 12 週	文献(6)の輪読
第 13 週	文献(6)の課題報告
第 14 週	最終レポートの報告と質疑応答
第 15 週	最終レポートの報告と質疑応答

《3群（情報・数理系科目）》

科目名	情報検索研究A				
担当者名	穂積 隆広				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

講義ではニューロコンピュータを構成するニューロンモデルについて説明し、それを多層に構成したニューラルネットワークおよびその学習法であるバックプロパゲーション法について説明する。また遺伝的アルゴリズムについては問題を遺伝子として表現し、その遺伝子に対して交叉・選択を繰り返して最適化を進める方法を説明する。また、これらの技術を利用した応用例についても学習を行う。

《授業の到達目標》

近年、大量のデータから有効な情報を発見するための情報処理方法として、人間の脳に着想を置くニューロコンピュータや、生物の進化過程に着想を置く遺伝的アルゴリズムなどが注目されている。本講義ではこれらの技術の基礎を学ぶとともに、その応用について研究を行う。

《テキスト》

『ニューロコンピュータの基礎』中野馨 コロナ社
『遺伝的アルゴリズムとニューラルネットワーク』電気学会編 コロナ社

《参考文献》

授業中に適宜紹介します。

《成績評価の方法》

授業に対する取り組み（20%）とレポート（80%）に基づいて評価します。

《授業時間外学習》

毎回予習と復習を行ってください。

《備考》

システムは情報分野だけでなく、文系の経済・経営システムの構築にもこの理論が用いられるので、受講することを奨める。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	パーセプトロン
第 2 週	ヘップの学習則
第 3 週	シグモイド関数を使ったニューロンモデル
第 4 週	多層ネットワークとバックプロパゲーション
第 5 週	多層ネットワークの応用について
第 6 週	自己組織化マップ
第 7 週	遺伝的アルゴリズムの基礎
第 8 週	遺伝的アルゴリズムの応用について
第 9 週	遺伝的アルゴリズムの応用について
第 10 週	個別課題
第 11 週	個別課題
第 12 週	個別課題
第 13 週	個別課題
第 14 週	個別課題
第 15 週	個別課題

《3群（情報・数理系科目）》

科目名	情報検索研究B				
担当者名	穂積 隆広				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

講義では代表的なクラスタリング手法であるC平均法、ファジィC平均法、混合密度分布モデル、階層的クラスタリング法などについて説明します。また、これらの技術を利用した応用例についても学習を行う。

《授業の到達目標》

大量のデータの中から有効な知識を導く手法のひとつとして、似ているデータをグループごとにまとめて分析を行うクラスタリングという手法が使われている。本講義ではこのクラスタリングの基礎を学ぶとともに、その応用について研究を行う。

《テキスト》

『クラスタ分析入門』宮本定明著 森北出版株式会社

《参考文献》

授業中に適宜紹介します。

《成績評価の方法》

授業に対する取り組み（20%）とレポート（80%）に基づいて評価します。

《授業時間外学習》

毎回予習と復習を行ってください。

《備考》**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	クラスタ分析の概要
第 2 週	C平均法
第 3 週	ファジィC平均法
第 4 週	混合密度分布モデル
第 5 週	その他の手法
第 6 週	様々なデータの類似度
第 7 週	階層的クラスタリング法
第 8 週	最短距離法と最長距離法
第 9 週	群間平均法とワード法
第10週	個別課題
第11週	個別課題
第12週	個別課題
第13週	個別課題
第14週	個別課題
第15週	個別課題

《3群（情報・数理系科目）》

科目名	コンピュータグラフィックス研究A				
担当者名	田中 正彦				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

オープンソースの3次元CG処理系を用いて、データ表現とユーザインタフェースについて研究する。
授業ではノート型パソコンや学内ネットワークを利用します。
詳細は学生と相談の上決定します。

《授業の到達目標》

3次元CGにおけるデータ表現とユーザインタフェースについて研究する。

《テキスト》

授業中に適宜紹介する。

《参考文献》

授業中に適宜紹介する。

《成績評価の方法》

提出物（100%）

《授業時間外学習》

予習を行うこと。

《備考》

自らが積極的に課題意識をもって取り組むこと。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	課題研究 (1)
第 2 週	課題研究 (2)
第 3 週	課題研究 (3)
第 4 週	課題研究 (4)
第 5 週	課題研究 (5)
第 6 週	課題研究 (6)
第 7 週	課題研究 (7)
第 8 週	課題研究 (8)
第 9 週	課題研究 (9)
第 10 週	課題研究 (10)
第 11 週	研究のまとめ (1)
第 12 週	研究のまとめ (2)
第 13 週	研究のまとめ (3)
第 14 週	研究のまとめ (4)
第 15 週	研究のまとめ (5)

《3群（情報・数理系科目）》

科目名	コンピュータグラフィックス研究B				
担当者名	田中 正彦				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

オープンソースの3次元CG処理系を用いて、データ表現とユーザインタフェースについて研究する。
授業ではノート型パソコンや学内ネットワークを利用します。
詳細は学生と相談の上決定します。

《授業の到達目標》

3次元CGにおけるデータ表現とユーザインタフェースについて研究する。

《テキスト》

授業中に適宜紹介する。

《参考文献》

授業中に適宜紹介する。

《成績評価の方法》

提出物（100%）

《授業時間外学習》

予習を行うこと。

《備考》

自らが積極的に課題意識をもって取り組むこと。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	課題研究 (1)
第 2 週	課題研究 (2)
第 3 週	課題研究 (3)
第 4 週	課題研究 (4)
第 5 週	課題研究 (5)
第 6 週	課題研究 (6)
第 7 週	課題研究 (7)
第 8 週	課題研究 (8)
第 9 週	課題研究 (9)
第 10 週	課題研究 (10)
第 11 週	研究のまとめ (1)
第 12 週	研究のまとめ (2)
第 13 週	研究のまとめ (3)
第 14 週	研究のまとめ (4)
第 15 週	研究のまとめ (5)

《3群（情報・数理系科目）》

科目名	情報通信研究A				
担当者名	堀池 聡				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

コンピュータシステムの研究において、ネットワーク通信に関する深い知識は欠かせません。広範な技術から成り立つネットワーク通信技術を、プロトコル階層に基づいて詳細を学び、その内容を整理します。情報通信研究Aでは物理層からネットワーク層までの下位層を対象とします。

《授業の到達目標》

通信プロトコルの下位層についての技術論文を理解できるレベルを目標とします。

《テキスト》

『Computer Networks (International Students Edition)』、Tanenbaum 著、(Prentice Hall 社)

《参考文献》

適宜紹介します。

《成績評価の方法》

毎回の授業での発表(30%)と提出課題への対応(70%)により総合的に判断します。

《授業時間外学習》

テキストの予習と復習を徹底的に行ってください。

《備考》**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	講義概要紹介
第 2 週	序論(1)
第 3 週	序論(2)
第 4 週	物理層(1)
第 5 週	物理層(2)
第 6 週	物理層(3)
第 7 週	物理層(4)
第 8 週	データリンク層(1)
第 9 週	データリンク層(2)
第 10 週	データリンク層(3)
第 11 週	データリンク層(4)
第 12 週	ネットワーク層(1)
第 13 週	ネットワーク層(2)
第 14 週	ネットワーク層(3)
第 15 週	ネットワーク層(4)

《3群（情報・数理系科目）》

科目名	情報通信研究B				
担当者名	堀池 聡				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

コンピュータシステムの研究において、ネットワーク通信に関する深い知識は欠かせません。広範な技術から成り立つネットワーク通信技術を、プロトコル階層に基づいて詳細を学び、その内容を整理します。情報通信研究Bではトランスポート層、アプリケーション層、ネットワークセキュリティを対象とします。

《授業の到達目標》

通信プロトコルの上位層についての技術論文を理解できるレベルを目標とします。

《テキスト》

『Computer Networks (International Students Edition)』、Tanenbaum 著、(Prentice Hall 社)

《参考文献》

適宜紹介します。

《成績評価の方法》

毎回の授業での発表(30%)と提出課題への対応(70%)により総合的に判断します。

《授業時間外学習》

テキストの予習と復習を徹底的に行ってください。

《備考》**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	講義概要紹介
第 2 週	トランスポート層(1)
第 3 週	トランスポート層(2)
第 4 週	トランスポート層(3)
第 5 週	トランスポート層(4)
第 6 週	アプリケーション層(1)
第 7 週	アプリケーション層(2)
第 8 週	アプリケーション層(3)
第 9 週	アプリケーション層(4)
第10週	アプリケーション層(5)
第11週	ネットワークセキュリティ(1)
第12週	ネットワークセキュリティ(2)
第13週	ネットワークセキュリティ(3)
第14週	ネットワークセキュリティ(4)
第15週	ネットワークセキュリティ(5)

《3群（情報・数理系科目）》

科目名	情報数学研究A				
担当者名	山本 真弓				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

多変数の微分、積分を扱い応用として常微分方程式、偏微分方程式の解法に重点をおき、情報学に応用できるようにする。

《授業の到達目標》

基本的な常微分方程式、偏微分方程式が解けるようになる。
これを情報学に応用できるようになる。

《テキスト》

受講生の学力に応じて選ぶ。

《参考文献》

受講生の学力に応じて紹介する。

《成績評価の方法》

課題への取り組み(20%)、試験(80%)

《授業時間外学習》

復習：その日に学んだことをノートにまとめ直し、理解不足の箇所は例題を再び自分自身の手を動かして解くこと。
予習：次回の講義部分を読み予習すること。

《備考》

受講希望者は、必ず初回に出席すること。基礎的な線形代数、微分積分は理解していること。初回に実力試験を行う。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	線形代数、微分積分の学力チェック
第 2 週	多変数微分の説明 1
第 3 週	多変数微分の説明 2
第 4 週	多変数微分の演習問題
第 5 週	多変数積分の説明 1
第 6 週	多変数積分の説明 2
第 7 週	多変数積分の演習問題
第 8 週	これまでの学習の振り返り
第 9 週	基本的な常微分方程式の説明 1
第 10 週	基本的な常微分方程式の説明 2
第 11 週	基本的な常微分方程式の演習問題
第 12 週	基本的な偏微分方程式の説明 1
第 13 週	基本的な偏微分方程式の説明 2
第 14 週	基本的な偏微分方程式の演習問題
第 15 週	学習のまとめ

《3群（情報・数理系科目）》

科目名	情報数学研究B				
担当者名	山本 真弓				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

群論を理解しオートマトン入門などを扱う。
情報学を学ぶために必要な離散数学を学ぶ。

《授業の到達目標》

群論を理解できるようになる。
これを用いて離散数学を理解する。

《テキスト》

受講生の学力に応じて選ぶ。

《参考文献》

受講生の学力に応じて紹介する。

《成績評価の方法》

課題への取り組み(20%)、試験(80%)

《授業時間外学習》

復習：その日に学んだことをノートにまとめ直し、理解不足の箇所は例題を再び自分自身の手を動かして解くこと。
予習：次回の講義部分を読み予習すること。

《備考》

受講希望者は、必ず初回に出席すること。基礎的な線形代数、微分積分は理解していること。初回に実力試験を行う。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	線形代数、微分積分の学力チェック
第 2 週	命題と理論、集合、関係
第 3 週	順序関係と順序集合
第 4 週	写像の定義と記号及び写像に関する定理
第 5 週	2項演算
第 6 週	準同形写像
第 7 週	同形写像
第 8 週	束の定義
第 9 週	ブール代数
第 10 週	半群と群
第 11 週	有限群
第 12 週	環と整域と体
第 13 週	オートマトン入門 1
第 14 週	オートマトン入門 2
第 15 週	学習のまとめ

《3群（情報・数理系科目）》

科目名	情報数理研究A				
担当者名	中田 美栄				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

線形空間と線形写像の特性を理解する。可逆の概念を理解する。

《授業の到達目標》

情報科学を勉強するために不可欠な線形代数の基礎を理論的に理解する。

《テキスト》

なし

《参考文献》

なし

《成績評価の方法》

小テストおよび宿題を 30%、定期試験を 70%カウントする。

《授業時間外学習》

小テスト及び宿題をすることにより、講義の内容の理解を確かなものにし、それが次回の講義を理解するための準備になる。

《備考》

むづかしくても簡単にあきらめず粘り強く考える態度が少しでも身についたら、将来かなり役立つと思う。出席を取る。遅刻、欠席はないように。もししてしまった場合は次回の講義までに追いついておくこと。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	集合と関数の復習
第 2 週	線形空間の定義
第 3 週	線形写像
第 4 週	線形写像の核とイメージ
第 5 週	化逆な線形写像
第 6 週	可逆でない線形写像
第 7 週	線形写像と行列
第 8 週	行列と線形写像
第 9 週	行スペースと列スペース
第 10 週	行列式と逆行列
第 11 週	逆行列
第 12 週	g -逆行列
第 13 週	g -逆行列
第 14 週	g -逆行列
第 15 週	g -逆行列

《3群（情報・数理系科目）》

科目名	情報数理研究B				
担当者名	中田 美栄				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

かなり抽象的なコンセプトが多いので、白紙からはじめる。まずメジャー理論から入り、ルベーク積分を定義する。そしてルベーク積分の重要な定理を学ぶ。

《授業の到達目標》

情報科学、経済学いずれにも必要な数学的道具であるルベーク積分の基礎を理論的に教える。

《テキスト》

なし

《参考文献》

なし

《成績評価の方法》

小テストと宿題を 30%、定期試験を 70%カウントする。

《授業時間外学習》

わからないところはわかるまで、色々な本を勉強し、色々な説明を勉強する。

《備考》

解析の極限の定義の正確な理解ができていることが望ましい。
出席を取る。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	集合と関数の復習
第 2 週	面積とは何？
第 3 週	σ -アルジェブラ
第 4 週	σ -アルジェブラ
第 5 週	ルベーク測度
第 6 週	ルベーク可測関数の定義
第 7 週	ルベーク可測関数の性質
第 8 週	ルベーク可測関数の単関数による近似
第 9 週	ルベーク積分の定義
第 10 週	ルベーク積分の定義
第 11 週	ルベーク積分の定義
第 12 週	ルベーク積分の定義
第 13 週	ルベーク積分の定義の重要な定理
第 14 週	ルベーク積分の定義の重要な定理
第 15 週	ルベーク積分の定義の重要な定理

《3群（情報・数理系科目）》

科目名	情報教育研究A				
担当者名	森下 博				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

インストラクショナルデザインによる体系的アプローチを用いて、情報教育方法の確立を目標にかかげる。具体的には、高等学校学習指導要領に基づく共通教科情報科の科目を中心に扱うこととする。特に改訂後の科目「社会と情報」「情報の科学」を現行の科目と照らし合わせながら進める。分析、設計、開発、実施、評価というプロセスの理論と実践を通して、eラーニング等を手段とした学習スタイルの効果的な教材と展開シナリオが自作できるようになることを目指す。

さまざまなメディアやICTを活用した授業方法や展開、そしてその効果や可能性が注目されている。特に、情報技術の進歩や環境の整備がなされ、eラーニングの普及が目覚ましい。しかし、情報技術を使用することだけがeラーニングとは言えず、教育の効果や魅力を高めるための検討が深くなされ、組み込まれなければならない。本講義では、インストラクショナルデザインの手順を踏まえながら、体系的アプローチによる教育方法や展開の研究をおこない、eラーニング等を手段とした情報教育方法の確立を目指す。

《授業の到達目標》

- 情報教育のための体系的アプローチを理解し、説明することができる。
- 情報教育のためのインストラクショナルデザインを構築することができる。
- 情報教育のためのeラーニング等を手段とした教材を制作することができる。

《テキスト》

適宜、プリントを配布します。

《参考文献》

文部科学省:「高等学校学習指導要領解説 情報編」, 開隆堂
 玉木欽也 監修:「eラーニング専門家のためのインストラクショナルデザイン」, 東京電機大学出版局
 適宜、参考書を紹介していきます。

《成績評価の方法》

課題進捗状況レポート提出 30%
 課題提出とその成果 70%

《授業時間外学習》

授業内容と課題を確認し、授業内で終えられなかった課題については、次回までに学習を済ませておいて下さい。そして、より理解を深めるため、またさらなる発展のための自主的な学習の取り組みに期待します。

《備考》

講義内容に関する質問は、授業時あるいはオフィスアワー等で受け付けます。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	情報教育研究：方法と方向性の提示
第 2 週	インストラクショナルデザイン：IDプロセス
第 3 週	分析(1)：学習活動の現状把握
第 4 週	分析(2)：教材企画書の制作
第 5 週	設計(1)：学習スタイルと教材の設計
第 6 週	設計(2)：設計仕様書の制作
第 7 週	開発(1)：教材の作成と開発
第 8 週	開発(2)：開発物の制作
第 9 週	実施(1)：インストラクタやメンタの役割
第10週	実施(2)：コースの運用
第11週	評価(1)：学習者とコースの評価
第12週	評価(2)：形成的評価と総括的評価
第13週	情報教育研究：教材コンテンツの制作
第14週	情報教育研究：教材コンテンツの改善
第15週	情報教育研究：教材コンテンツの提出

《3群（情報・数理系科目）》

科目名	情報教育研究B				
担当者名	森下 博				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

インストラクショナルデザインによる体系的アプローチを用いて、情報教育方法の確立を目標にかかげる。具体的には、高等学校の学習指導要領に基づく専門教科情報科の科目を中心に扱うこととする。特に改訂後の科目「情報産業と社会」「課題研究」「情報の表現と管理」「情報と問題解決」「情報テクノロジー」「アルゴリズムとプログラム」「ネットワークシステム」「データベース」「情報システム実習」「情報メディア」「情報デザイン」「表現メディアの編集と表現」「情報コンテンツ実習」を現行の科目と照らし合わせながら進める。分析、設計、開発、実施、評価というプロセスの理論と実践を通して、ブレンディッドラーニングを手段とした学習スタイルの効果的な教材と展開シナリオが自作できるようになることを目指す。

学習目標の到達やその可能性を最大限に高めるには、どのような学習スタイルが適しているか見極めることが重要である。学生が同じ時間、同じ空間で学習を共有する対面スタイルに加え、情報通信技術を活用して、いつでもどこでも学習できるeラーニングのスタイルが適材適所で実践されてきている。そこで、両スタイルの相互補完により、学習効果を上げようとするブレンディッドラーニングに注目が集まっている。インストラクショナルデザインの考え方をもとに、ブレンディッドラーニングによる情報教育方法の確立を目指す。

《授業の到達目標》

- 情報教育のための効果的なインストラクショナルデザインを構築することができる。
- 情報教育のための効果的なeラーニング等を手段とした教材を制作することができる。
- 情報教育のための効果的なブレンディッドラーニングのシナリオを実践することができる。

《テキスト》

適宜、プリントを配布します。

《参考文献》

文部科学省:「高等学校学習指導要領解説 情報編」, 開隆堂
 宮地功 編著:「eラーニングからブレンディッドラーニングへ」, 共立出版
 適宜、参考書を紹介していきます。

《成績評価の方法》

課題進捗状況レポート提出 30%
 課題提出とその成果 70%

《授業時間外学習》

授業内で終わらなかった課題については、次回までに学習を済ませておいて下さい。そして、より理解を深めるため、またさらなる発展のための自主的な学習の取り組みに期待します。

《備考》

講義内容に関する質問は、授業時あるいはオフィスアワー等で受け付けます。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	情報教育研究：方法と方向性の提示
第 2 週	インストラクショナルデザイン：プロセスとアプローチ
第 3 週	教育システムの分析(1)：ニーズ分析
第 4 週	教育システムの分析(2)：学習目標分析
第 5 週	eラーニングの設計(1)：学習の順序と構造
第 6 週	eラーニングの設計(2)：デジタルコンテンツ
第 7 週	ブレンディッドラーニングの開発(1)：デザインとモデル
第 8 週	ブレンディッドラーニングの開発(2)：メディアの選択
第 9 週	ブレンド型授業の実施(1)：学校教育の事例
第10週	ブレンド型授業の実施(2)：企業教育の事例
第11週	学習活動の評価(1)：相対評価と絶対評価
第12週	学習活動の評価(2)：形成的評価と総括的评价
第13週	情報教育研究：授業展開方法の検討
第14週	情報教育研究：授業展開方法の提示
第15週	情報教育研究：授業展開方法の総括

《特別研究》

科目名	特別研究（論文指導）				
担当者名	三宅 伸二, 中田 美栄, 高本 茂, 山本 真弓, 石原 敬子, 穂積 隆広, 榎木 浩, 竹川 宏子, 堀池 聡				
授業方法	演習	単位・必選	8・必	開講年次・開講期	全学年・通年

《授業のねらい及び概要》

研究目的に沿った修士論文の作成

《授業の到達目標》

修士論文の作成

《テキスト》

なし

《参考文献》

その都度指示

《成績評価の方法》

修士論文に関する発表内容(50%)と論文作成の進捗度(50%)

《授業時間外学習》

授業時間外の学習・研究が中心となります。授業は成果の発表の場となります。

《備考》**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	研究目的に沿う専門書、論文の輪読と発表
第 2 週	研究目的に沿う専門書、論文の輪読と発表
第 3 週	研究目的に沿う専門書、論文の輪読と発表
第 4 週	研究目的に沿う専門書、論文の輪読と発表
第 5 週	研究テーマの設定
第 6 週	研究内容の発表と論文指導
第 7 週	研究内容の発表と論文指導
第 8 週	研究内容の発表と論文指導
第 9 週	研究内容の発表と論文指導
第 10 週	研究内容の発表と論文指導
第 11 週	研究内容の発表と論文指導
第 12 週	研究内容の発表と論文指導
第 13 週	研究内容の発表と論文指導
第 14 週	研究内容の発表と論文指導
第 15 週	研究内容の発表と論文指導